

平成25年度さぬき市男女共同参画推進活動事業

【さぬき市中学生ワークショップ通信】

テーマ「自分らしく、ともにいきいきと生きることができるまちをめざして」

| | |
|-----------|---|
| 日時 | 平成25年8月6日(火) 13:20~16:00 |
| 場所 | さぬき市役所3階301・302会議室 |
| 参加人数 | 31人(生徒26人(市内中学校2・3年生)、各中学校教員5人) |
| スタッフ | ・男女共同参画推進協議会委員6人 ・男女共同参画推進市民サポーター3人 ・市事務局 |
| 今回の目標 | ●「わたしたちみんなが、自分らしく、ともにいきいきと暮らせるさぬき市になるには」を実現するために、一緒に取り組む関係をつくり、現状を理解し、実践できることを提案する。 |
| タイムスケジュール | 13:20~開会(あいさつ:事務局、大山市長のことば) 13:30~オリエンテーション(講演:香川大学男女共同参画推進室 長安めぐみ先生) 14:00~アイスブレイク(男女共同参画カルタを使った自己紹介) 14:05~中学生アンケート結果(昨年度実施)をみて、グループ内で意見発表 14:20~全員参加型フリップ式ディスカッション①「わたしのまちのいいなと思うところ、変えたいところ」 14:45~②「大人にできること、わたしができること」 15:25~グループ発表 15:40~大山市長あいさつ 15:45~ふりかえりとまとめ(長安先生の講評) 15:55~閉会 |
| グルーピング | 1テーブル5~6人の班に分かれ、生徒グループが5班、教員グループ1班、計6班のグループに分かれて作業を行いました。 |



ワークショップのスタートにあたって、参加生徒がワークショップの概要を理解し、同じ目的に向かって協力し合える関係にするため、ワークショップ全体のゴールや進め方、留意事項などを紹介し、その上で、香川大学男女共同参画推進室の長安めぐみ先生による「男女共同参画」についての講演を行いました。

【ワークショップとは】

※参加者が協力しながら知恵を出し合い、手を動かし、その成果をまとめていく作業のことです。一般的な会議と異なり、参加者自らが自由に意見を出し、協力しながらまとめあげることが目標としています。参加者一人ひとりが目標を共有し、同じ方向に向かって作業を進めていきます。

オリエンテーション（オープニングスライドショー／目的の共有）

オリエンテーションでは、香川大学男女共同参画推進室の長安めぐみ先生による「男女共同参画と個人の幸せ」と題した講演を行いました。参加生徒一人ひとりが、同じ志を持ち、自ら男女共同参画を進めていく気持ちになるための、色々な話を聞くことができました。

【講演の概要とトピック】

1. はじめに 男女共同参画＝男女平等について
2. 思い込み（偏見）の影響
3. 男女平等ってなんだろう？世界に目をやると・・・。
4. 豊かで自由な社会をみんなで作っていくこと
5. 10年間あなたはどう生きていく？

- 保井コノ博士の人生に見る女性の参画の歴史
- 日本国憲法～職業選択の自由
- 女性が働き続けるために必要なこと
- 若い女性を縛る思い込み
- 女性の職業と収入
- ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）
- 国際的動向～1979年「女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」（女性差別撤廃条約）の採択
- 女性や子どもが教育を受ける権利～タリバンによる銃撃を受けたマララ・ユスフザイさんの話



アイスブレイク

参加型の学びの場を作っていくための準備として、初めての人同士がお互いを知り合うための情報交換を行いました。具体的には、事前に配布された男女共同参画カルタの中から一番好きなカルタを選び、それを選んだ理由を用紙に各自記入し、自己紹介をし合いました。また、アンケート結果についての感想を紹介し合いました。

Q1. あなたが一番好きなカルタと、それを選んだ（好きな）理由を教えてください。（○の中にひらがな、「 」の中にカルタの言葉を書いてください。氏名等も忘れずに書いてください。）

Q2. 中学生アンケート調査P. 6「3. 男女の扱いについて」の結果を見て、あなたがどう思ったか教えてください。（自分が思う番号に○印をつけてください。理由も忘れずに書いてくださいね！）

1. 男子のあつかいがよいと思った
2. 平等だと思った
3. 女子のあつかいがよいと思った

暮らしの中の思いを語ってみよう！

全員参加型フリップ式ディスカッションという手法を用いて、暮らしの中の男女平等に関する現状を、参加生徒がどのように認識しているか紹介し合いました。

【全員参加型フリップ式ディスカッションとは】

※ワークショップなどで使用される技法の一つ。全員に紙(ふせんなど)とマジックを配布し、進行役の投げかけ(質問)に対して、その場でキーワードを全員が書き、グループや全体でそのキーワードの意味などを紹介し合いながら、話題を広げたり深めたりする手法。

【1】暮らしの中でいいなと思うところは？変えたいところは？

「わたしたちみんなが自分らしく、ともにいきいきと暮らせるさぬき市になるには？」が今回のテーマです。このテーマの実現に向けて、暮らしの中で「いいなと思うところ」と「変えたいところ」をふせんに記入し、模造紙の所定の枠内に貼り付ける作業を行いました。

「いいなと思うところ」「変えたいと思うところ」の全体を見渡ししながら、同じ、あるいは類似の意見をグルーピングして(まとめて)、そのグループごとに見出しをつけます。

【いいなと思うところ】

♪こんな意見が出ました『学校生活・部活動の場で』

- ◆委員などで、男子から1人女子から1人と決め、平等であるところ(1班)(3班)
- ◆男子・女子、両方の委員長がいるところ(1班)
- ◆男子は技術だけ、女子は家庭科だけを受けるといった授業になっていない(1班)
- ◆男女共学で学んでいるところ(1班)
- ◆男子でも女子でも、自分の好きなこと、好きなスポーツができる(1班)
- ◆男子と女子で、体操服のデザインが同じ(1班)
- ◆話し合いをする時、男女平等に意見を言うことができる(1班)
- ◆バックの色が同じ、または2つあったらどちらでもよい(2班)
- ◆さぬき市内の学校の生徒たちがけんかすることなくみんな仲がよい(2班)
- ◆学校がきれいになった(2班)
- ◆中学校が広く、きれいになって使いやすくなった(2班)
- ◆野球部にも女子が入れるようになった(2班)
- ◆席順が男女混合である(3班)
- ◆グループ活動するときに、男女混合であるところ(3班)
- ◆学校の中では差別はほとんどない(4班)
- ◆学校の中では全員が平等だと思う。これからも続けたい(4班)
- ◆クラスの中では男女が協力してできている。意見もみんなが発表できる。できない人がいても助け合える。(4班)
- ◆部活動などの試合で男子が女子を、女子が男子を応援しているところ(4班)
- ◆みんなの意見を、採用・検討するところ(5班)
- ◆出席番号が男女ランダムになっている(5班)



注:分野の区分(例「学校生活・部活動の場で」など)は大枠でくり直しています。

- ◆学校で、男子校・女子校があり、その環境で自分らしさを出せるところがある（5班）
- ◆部活動の運動部に、気軽に女子が入れるように声かけなど努力できている（5班）
- ◆野球部やサッカー部に、女子が入部してもよいこと（5班）
- ◆テニス部は男女分かれていて、男女が気軽に入りやすくなっているところ（5班）

♪こんな意見が出ました『社会生活や地域活動などの場で』

- ◆電車では、妊婦さんなどの人のための優先座席がある（1班）
- ◆障害を持っている方や妊婦さんのための駐車場がある（1班）
- ◆さぬき市中学生ワークショップを開くなど、男女共同参画に向けての活動が行われている。（2班）
- ◆（祭りに）年齢、性別関係なく参加できる（3班）
- ◆志度の祭りの後に掃除をするのが学校の習慣になっている。地域のために何かをするのは大切（4班）
- ◆地域のボランティアに男女関係なくいっぱい参加しているところ（4班）
- ◆地域の行事に男女で協力しあえるところ（4班）
- ◆父さんと母さんが一緒に家事をするところ（4班）
- ◆「差別」と感じられる場面が少ないこと（5班）
- ◆最近イクメンなどが広がっていて、女性の負担が少なくなった（5班）
- ◆ししまいは男女で踊れる（5班）

参考／先生（教員）グループでは

♪こんな意見が出ました『生活環境など』（教員）

- ◆田舎はいい。海、山、川
- ◆街がきれいに保たれている
- ◆定住補助金がでる
- ◆太陽光補助



【変えたいと思うところ】

♪こんな意見が出ました『男女のこと』

- ◆「イクメン」という言葉が生まれること（男が育児をするのはおかしくない）（1班）
- ◆学校内で、男子の方が「力が強い」「精神的に強い」と思われつつある（1班）
- ◆男子だから勉強ができなければならないという意見がある（1班）
- ◆大きな役を任せるのは男子ということが多いところ（1班）
- ◆校長先生に男性が多いところ（1班）
- ◆男子は男子のグループ、女子は女子のグループでかたまることがあること（1班）
- ◆緊急の時、女子なんだから男子なんだからと責め合ってしまうところ（1班）
- ◆「男なんだから」とか「女なんだから」といった発言がされること（1班）
- ◆女子が「少年ジャンプ」を読んでいると驚かれる（1班）
- ◆家事を、母（女性）の方が多くやっている（1班）
- ◆ちょうさ祭りで、男子しか山車（だし）に乗れない（1班）
- ◆生徒会長が、男子の割合が多い（3班）
- ◆保育士や幼稚園の先生は女性が多く、男性が少ない（3班）
- ◆友達の鉄道ファンの子がからかわれることがある。自分の興味のある事を、自信を持ってできるようにしたい。（4班）
- ◆男子と女子の意識を変える（5班）
- ◆親に、「女の子はおとなしく、おしとやかにしなさい」と言われる（5班）
- ◆男子は口が悪くてもいいけれど、女子はそんなにうるさく言わなくても注意される（5班）

♪こんな意見が出ました『学校生活・部活動の場で』

- ◆学年全体の人が集まった時のあいさつや、力仕事は絶対男子にまかされていること（2班）
- ◆登下校時に男子は半ズボンでもいいが、女子は長ズボンを夏でも着用しなければならない（2班）
- ◆文化部に男子が少ない（2班）
- ◆運動部は男子が多い（2班）
- ◆休み時間に、男子同士、女子同士で分かれて過ごしている（3班）
- ◆部活動に、男女どちらでも入れるようにする（3班）
- ◆女子より男子のほうが先生に怒られやすい（3班）
- ◆女らしい言葉遣いを求められる（3班）
- ◆男子の少ない部活動に男子が入りからかわれている（4班）
- ◆部活で男子が入りにくい部活、女子が入りにくい部活があるところ（4班）
- ◆クラスの中で話すときに女子と男子で分かれてしまうところ（4班）
- ◆男子と女子が普通に話しているだけで、まわりが変な目になる（4班）
- ◆甲子園に男子しか出場してはいけないというところ（5班）
- ◆一定の部活動に、男子や女子が入っていて変だという意識（5班）

♪こんな意見が出ました『社会生活や地域活動などの場で』

- ◆店がたくさんできてほしい(特に本屋) (2班)
- ◆大型店舗がほしい (2班)
- ◆祭りにでるのが男子だけ (2班)
- ◆祭りの御輿に女子が乗れない (3班)
- ◆お祭りの獅子は男子のみである (3班)
- ◆さぬき市ではあまり男女に差がないと思うが、たまに見られる (4班)
- ◆地域の中で男性の人は何もしなくても、あまり言われませんが、女性の方はすぐに広がる (4班)
- ◆女性を見た目で決めつける人がいる。男性も (4班)
- ◆名前呼び方(あだ名)がその人の見た目で決められているときがある (4班)
- ◆餅投げで女性はしてはいけないことがある (5班)
- ◆映画館などで「レディースデイ」など女性だけひいきされている (5班)
- ◆男性だけでプリクラをとってはいけない所があること (5班)



♪こんな意見が出ました『仕事の中で』

- ◆女性の雇用の数をもっと増やしてほしい (5班)
- ◆女性が社長や店長、総理大臣などの大きな役割をもつ仕事を、もっとできるようにすべき (5班)
- ◆力仕事は男性ばかり (5班)
- ◆先生が女性だと、性別だけで生徒になめられる (5班)

♪こんな意見が出ました『家庭生活の中で』

- ◆家庭での仕事を、女性に任せすぎている (3班)

参考/先生(教員)グループでは

♪こんな意見が出ました『学校生活の中で』(教員)

- ◆小学校の先生は男性が少ない
- ◆管理職(女性)が少ない

♪こんな意見が出ました『社会生活の中で』(教員)

- ◆保育料1人目よりタダにしてほしい
- ◆医療費は中学生まで無料に
- ◆時間的な都合がつけやすい仕事
- ◆男性の育児休暇は取りにくい
- ◆通学しやすい校区、交通手段の整備



【2】「大人ができること」「わたしができること」

【1】の作業の結果を踏まえて「大人ができること」とその理由を新たにふせんに記入し、指定された枠に貼り付けていきます。さらに「わたしができること」を1人ずつ名前とともにふせんに記入し、貼り付けていきます。

「わたしができること」まで書き終わったら、みんなでグループ名を決めてイラストなどとともに余白に記入します。

【大人ができること】

♪こんな意見が出ました『社会生活や地域活動などの場で』

- ◆優先座席には、健康な人は座らない（1班）
- ◆優先的に使う人がいる席や施設は、その対象の人に譲る（基本的に使用しない）（1班）
- ◆ちょうさ祭りで、男女差別なく山車（だし）に乗れるようにし、みんなが楽しめるようにする（1班）
- ◆性別で能力を分けるのではなく、一人一人の能力を見て判断し、活かしてほしい（1班）
- ◆女子も出られるようにしてほしい（地区から1人は女子を出すなど）（2班）
- ◆地域の活性化をしてほしい（2班）
- ◆大人に呼びかけてほしい！たばこくさい（2班）
- ◆ごみをすてない（2班）
- ◆子どもたちのためにもたばこは子どもたちの前で吸わないようにしてもらいたい（2班）
- ◆交通ルールを守る（2班）
- ◆正しい運転（2班）
- ◆御輿に女子も乗れるようにしてほしい（3班）
- ◆市民の声をもっと聞いてほしい（3班）
- ◆男性枠と女性枠を必ずつくって、男女が平等に働ける環境をつくる（3班）
- ◆男性は何かをしてもあまり言われない。→もっと女性が言いたいことを言う。コミュニケーションをとれる場を作る（4班）
- ◆地域の交流行事をもっとふやして活発にする（4班）
- ◆差別をなくそうという、ポスターなどを市全体にはりつけてほしい（4班）
- ◆お年寄りの方や体の悪い人考えた、もっともっと優しい町をつくってほしい（4班）
- ◆地域の人（特に大人）がお互いに呼びかけ合う。理由は会話が男女の中で少ないから、男性がどうしてもなまけてしまうからだと思う。（4班）
- ◆テレビなどで、からかわれるような趣味の良い所をもっと放送するようにする（4班）
- ◆映画館で「メンズディ」「ハーフ&ハーフディ」をつくる（5班）
- ◆女子も甲子園に出場してもよいことにする（5班）
- ◆餅投げの時に、女性も気軽にできるように男性に理解してもらおう（5班）
- ◆会社で女性の雇用数を増やしてもらおう（5班）
- ◆保育園や幼稚園で、もっと子どもを入れやすいように安い入会費にする（5班）

♪こんな意見が出ました『学校生活・部活動の場で』

- ◆混合名簿を続ける（1班）
- ◆先生と生徒の意見交換の場をもうけてほしい（2班）
- ◆生徒を男女平等に叱ってほしい（3班）
- ◆部活動に男女どちらも入れるようにしてほしい（3班）
- ◆女らしい言葉遣いを求めないでほしい（3班）
- ◆授業などで、男女一緒に話し合える機会をもっと増やす（4班）
- ◆男女でもっと会話をし、子どもにアピールしてほしい。見せつけたらお互いに怖さがなくなると思う（4班）
- ◆女子と男子が両方楽しめ、一緒にできるような企画などをつくってほしい（4班）
- ◆男子が入りにくい部活動ができないようにいろんな人への勧誘を強めてほしい（4班）

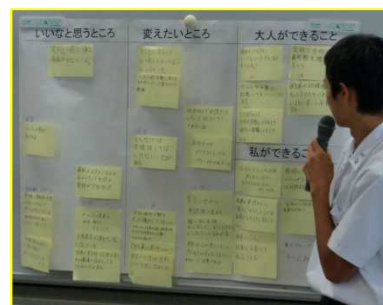
♪こんな意見が出ました『家庭生活の場で』

- ◆男性がしろ、女性がしろっていう風なものはなくし、互いに夫婦で助け合いながら率先してする（1班）
- ◆親が「男子なんだから」「女子なんだから」という決めつけをしないでほしい（1班）
- ◆育児を男がするのはおかしいことではないのに「イクメン」といった言葉を使うのはやめた方がよい（1班）
- ◆家庭内で、父親がもっと働く（3班）

参考／先生（教員）グループでは

♪こんな意見が出ました『社会生活などの場で』（教員）

- ◆きちんと税金を納める
- ◆学校跡地を企業誘致などの有効活用につかう→法人税、働く職場の確保
- ◆年間2週間（継続して）必ず休むことを義務化
- ◆育児休暇を取りやすい雰囲気づくり



【わたしができること】

♪こんな意見が出ました『学校生活・部活動の場で』

- ◆男子は男子、女子は女子と差別せず、積極的に一緒にやろうよと誘っていきたい（1班）
- ◆話し合いの時、男子に聞いたら次女子というように、順番に言えるようにする（1班）
- ◆スポーツ部だけでなく、文化部の「吹奏楽は女子が多い」「パソコンは男子が多い」などの偏見も減らす（1班）
- ◆部活動勧誘のポスターなど、男子用も作る（1班）
- ◆生徒会が委員の募集要項を作る時、「男女〇名ずつ」を表記する（1班）
- ◆学校の体操服など、男子と女子が同じというところを続けてほしいと意見を述べる（1班）
- ◆各部活動がもっと人を呼んで部活動に入ってもらえばいい（2班）
- ◆先生に生徒の気持ちをしっかり伝えるようにする（2班）
- ◆自分から「～したい」という意見をだす（2班）
- ◆自分たちが意識して異性と交流し合う（3班）
- ◆先入観を持たない（3班）
- ◆「女子歓迎！」と大きな字で書く（4班）
- ◆例えば吹奏楽なら、男子が入りにくいので勧誘するとき「男子も歓迎！」とこころがける。（4班）
- ◆男子も女子も気軽に入部できるような勧誘をする（4班）
- ◆女子の少ない部活動があったら女子が楽しいと思えるようなことをアピールする（4班）

♪こんな意見が出ました『社会生活や地域活動などの場で』

- ◆「少年漫画」「少女漫画」という呼び方による偏見を控える（1班）
- ◆「男なんだから」「女なんだから」といった言葉を使われたら、それはおかしいと否定する（1班）
- ◆優先座席には、必要でない場合は絶対に座らない（1班）
- ◆大人の人に強く呼びかける（2班）
- ◆交通ルールを守るために自転車の乗り方を考え、信号もちゃんと確認する
- ◆地域の人と協力して、きれいな環境を作ったり、きずなを深めて明るい地域を作る（2班）
- ◆外国人でも困っていたら積極的に話しかける（2班）
- ◆異性の友達に、「男子！」「女子！」と呼ばず、名前で呼ぶようにすること（5班）
- ◆社長になる！（5班）
- ◆仕事と子育てを両立させる！（5班）



♪こんな意見が出ました『意識づくりや心がけ』

- ◆先入観を持たない（3班）
- ◆自分の良さ、相手の良さを尊重し合えるように、紹介しあったりする（4班）
- ◆人それぞれもつ趣味を絶対否定しない（4班）
- ◆見た目で判断するのではなく、会話するようにする（4班）
- ◆相手が傷つかないように、「○○って呼んでいい？」と聞いておく（4班）
- ◆もしあだ名で相手がいやがっていたら自分がやられたらどうか考える。もっと他に良いことを見つける。相手がいやがってなければ良いと思う。（4班）
- ◆見た目だけで判断しないように相手の中身をしっかりと理解した上で会話をする（4班）
- ◆相手のよいところを見つけて、相手が嫌がるようなあだ名をつけないよう心がける（4班）

♪こんな意見が出ました『家庭生活の場で』

- ◆自分にできることは自分でするようにする（3班）
- ◆自分が大人になった時、「おとなしくしなさい」などと言わないように気をつける（5班）
- ◆結婚したら、パートナーにしっかりと頼って仕事は分担する（5班）
- ◆家族ができた時に、少しでも家事を手伝う

参考／先生（教員）グループでは

♪こんな意見が出ました『社会生活などの場で』（教員）

- ◆我が子のしつけ
- ◆我が子に小さい頃からいろんなことを協力することを教えて実践させる
- ◆家事の協力、分担
- ◆男性が育児休暇をとる
- ◆育児（家事）の役割分担
- ◆生徒への教育



グループ名

| | |
|-------------|------------|
| 1 班 | さむさふせか |
| 2 班 | マイクロゾースキー |
| 3 班 | 友也ブラザーズ |
| 4 班 | 男女平等レンジャー |
| 5 班 | 「チーム社長！！」 |
| 6 班 (教員) | ポジティブアクション |



参考資料／出席者アンケート集計結果

今回ワークショップに参加した生徒および教職員の皆さんに、参加した感想をアンケート用紙に記入してもらいました。

■ワークショップに参加して感じたこと

| 勉強になった | 楽しかった | 難しかった | つまらなかった |
|--------|-------|-------|---------|
| 21人 | 6人 | 0人 | 0人 |

■ワークショップの感想

女子生徒

- ◆いろいろな見方で考えることができ、様々な意見を知ることができました。
- ◆他の中学校の人たちとの意見交換をして、コミュニケーション力など自分に身につけることができた。
- ◆「こうしてほしい」「こうなったらいいな」と思うことがあっても、そのためにどのようなことをすればいいかと具体的なことを出すのが難しかった。
- ◆初めて違う中学生の子と一緒に話し合いをして、私たちは10年後社会の主役になるからしっかり男女共同についてワークショップを真剣にできてよかったです。
- ◆男女間での問題がたくさんあることが分かった。これから私達が平等な社会を築いていく上で、自分ができることを見つけていこうと思った。
- ◆自分が普段はあまり深く考えていなかったことを自分の言葉で表すのはすごく難しかった。これからの生活の中で応用していけそうな意見も多く出ていて、とてもよかった。
- ◆家で資料を読んでいて、「こんなことがあるんだ…」と不安を感じながら行きましたが、他の人の意見をたくさん聞いて、とても勉強になりました。また、先生の話も分かりやすく、とてもよかった。
- ◆自分なりに男女平等や地域のことについて考えてきたけれど、自分の身近なことで気付かなかったことがあったり、初めて知ったことが多かったから。簡単に「平等」や「差別をなくす」と言っているけれど、実際にはなかなか意見が出なかった。
- ◆他の中学生の人たちと話し合うことができたからよかったです。自分が考えつかなかった意見がたくさんでて「なるほどなあ」と思いました。
- ◆普段はあまり深く考えていなかったことを改めて考え直したから。
- ◆他中の子が考えていることが分かったから。自分達が将来しなければならないことを考えさせられたから。
- ◆意外にもたくさんの意見が出て驚いた。

男子生徒

- ◆あらためて「平等」の大切さが分かった。
- ◆地域や学校での男女の扱い方について深く考えるようになった。
- ◆学校内、地域内で起こっている差別をなくしていくために今日考えた「私ができること」を実際にやっていたらいいと思いました。
- ◆これまではさぬき市についてはあまり考えたことはなかったけれど、地域のためにどうすれば良いか考えることができ、興味も持てた。
- ◆家の中、学校、地域などたくさんの場面で男性女性の平等は大切だと感じた。1人1人の意見を大切に、それぞれ生きているみんなが幸せに生活できるようにこれから実行していきたい。
- ◆今まで男として、女として当たり前だと思っていたことも、違う見方をすると悲しむ人もいて、深く考えた。いろんな趣味や仕事をいろんな方面から見てみたい。
- ◆人それぞれ同じものに対しての意見は違うので今度話し合いをするときにも活かせると思う。
- ◆僕はワークショップに参加する前は男女は平等だと思っていました。でも、いろんな学校の人の意見を聞いて平等でないことをなくしていきたいなと思いました。
- ◆10年後に自分たちが考えたことが実現したらいいなと思いました。
- ◆自分たちの未来を考えたことで、これからの生活の暮らし方への考え方が変わりました。
- ◆自分の将来についてまじめに考えることができた。
- ◆より一層さぬき市のことを考えるようになった。自分の住んでいる町の活性化をしたいと思った。
- ◆初めは、男女平等だと思って、参加したけれど、ワークショップをすることによって、まだ男女が平等じゃないことがたくさんあったんだなあと思ったからです。

大人の意見・感想

- ◆このようなワークショップに参加したことはなかったので、いろんな子どもたちの意見が聞けて、おもしろかったし、あらためて、子どもパワーを感じました。
- ◆保井コノ博士のことがわかってよかったです。
- ◆中学生のワークショップを計画したことで、男女共同参画に関心をもってもらえたことは大変意義あることだと思いました。中学生はあまり男女の差別感をもっていない様に感じられ、少しずつではあるが男女共同参画社会も実現の方向に向かっていると思われました。
- ◆自分の家族について、もっと考えて欲しいと思った。
- ◆住みやすい町、さぬき市に共に協力したいし、自分らしい意見を持ちたい。
- ◆中学生にも今回のような講師を招いて、男女共同参画の推進に関する取り組みができるといいなあ。
- ◆今日のワークショップで生徒の意識は高まったと思われる。ただ、さぬき市の男女共同参画の推進する企画が生まれるきっかけになるかどうかはハテナ(?)な気がする。継続した取り組みが必要ですね。